概要版

令和5年度
琉球大学 SDGsに関する教職員・学生アンケート調査報告書

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

琉球大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

●SDGs（持続可能な開発目標）とは・・・

すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための青写真です。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指します。SDGsの目標は相互に関連しています。誰一人置き去りにしないために、2030年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。

【出典：国際連合広報センター】

本学では、第４期中期目標・中期計画において、教育・研究等活動におけるSDGsの取組の推進と島嶼地域の課題解決に向けた多様なステークホルダーとの連携・協働を掲げており、これらをスムーズに進めていくためには、何よりも教職員のSDGsに関する意識啓発（自分ごと化）と自発的アクションを促していくことが求められます。

●調査目的

SDGs持続可能な開発目標への取組について、教職員・学生の理解、考えや実践等のアンケートを行うことで、本学でのSDGs活動のチェックを行い、改善しながらSDGs達成に貢献することを目的として実施しました。

●調査実施日

2023年12月5日～ 2024年1月9日（教職員）
2023年9月28日～12月13日（学部学生）
2023年9月28日～12月13日（大学院学生）

●調査対象者

教員（常勤・非常勤）回答者数：200人、 職員（常勤・非常勤）回答者数：363人
学部学生　回答者数：614人、大学院学生　回答者数：87人

●調査方法

教職員・学生対象にWeb形式にてアンケートを実施しました。

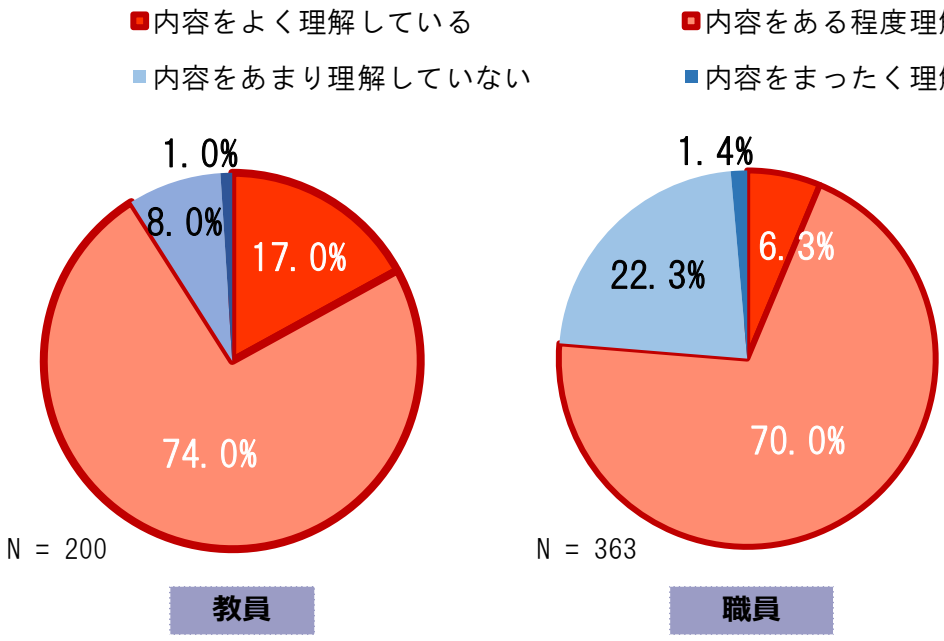
●図表の見方

本報告書に記載する表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはなりません。

教職員のSDGsの理解度

教員・職員

「SDGsの理解度」は、「教員」のうち「内容をよく理解している」と回答した割合が17.0%に対し「職員」は6.3%と、10.7 ポイントの開きがあります。教員は講義等で実践の機会があるものの、職員について実際の行動に結びつけられるような取組を展開していくことが重要です。



【内容の理解割合】

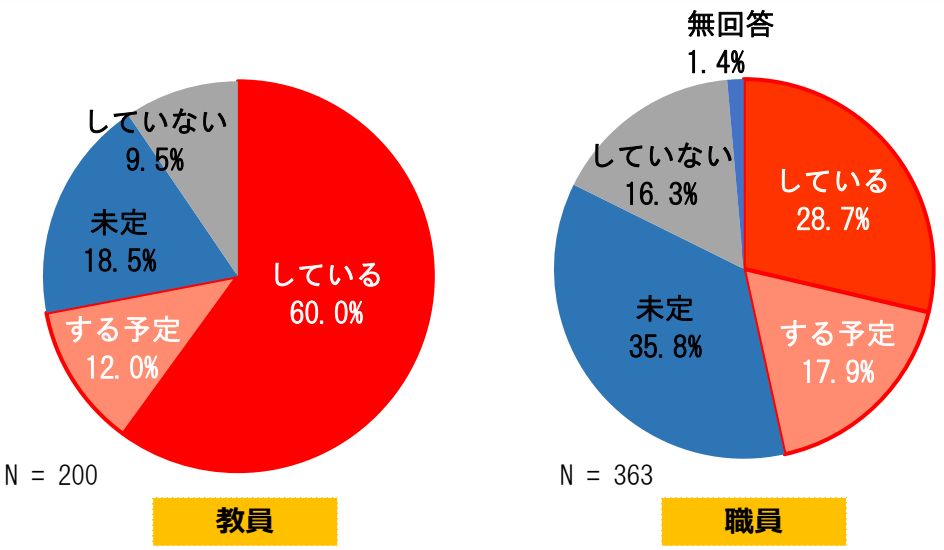
理解している
教員　91.0%
職員　76.3%

理解していない
教員　9.0%
職員　23.7%

課題解決の取組

教員・職員

「業務または日常生活を通じて社会課題解決の取組を行っているか」を問う設問においては、教員の6割、職員の3割弱が取組をしていると回答しており、割合に大きく開きがありました。
この結果には、役割の違いが取組割合と関連していると想定されますが、大学内では様々な役割がSDGsの目標と結びつくため、職員など教育カリキュラムなどの研修も重要です。



【課題解決の取組割合】

取組をしている
（予定含む）
学部学生　72.0%
大学院学生　46.6%

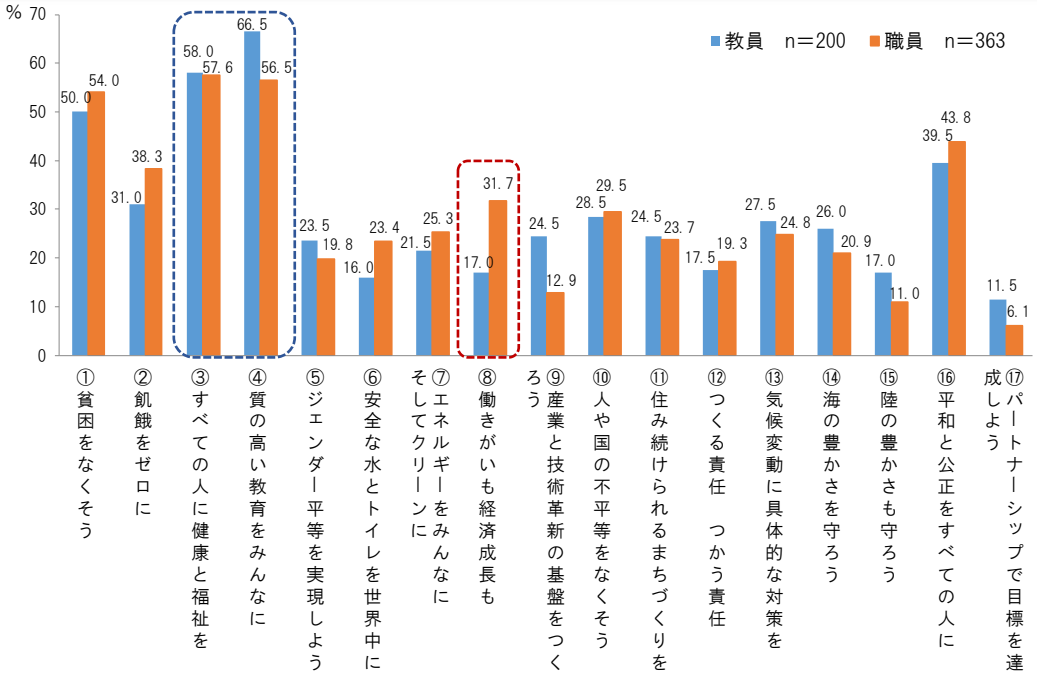
取組をしていない
学部学生　9.5%
大学院学生　16.3%

重点的に取り組むべき目標

教員・職員

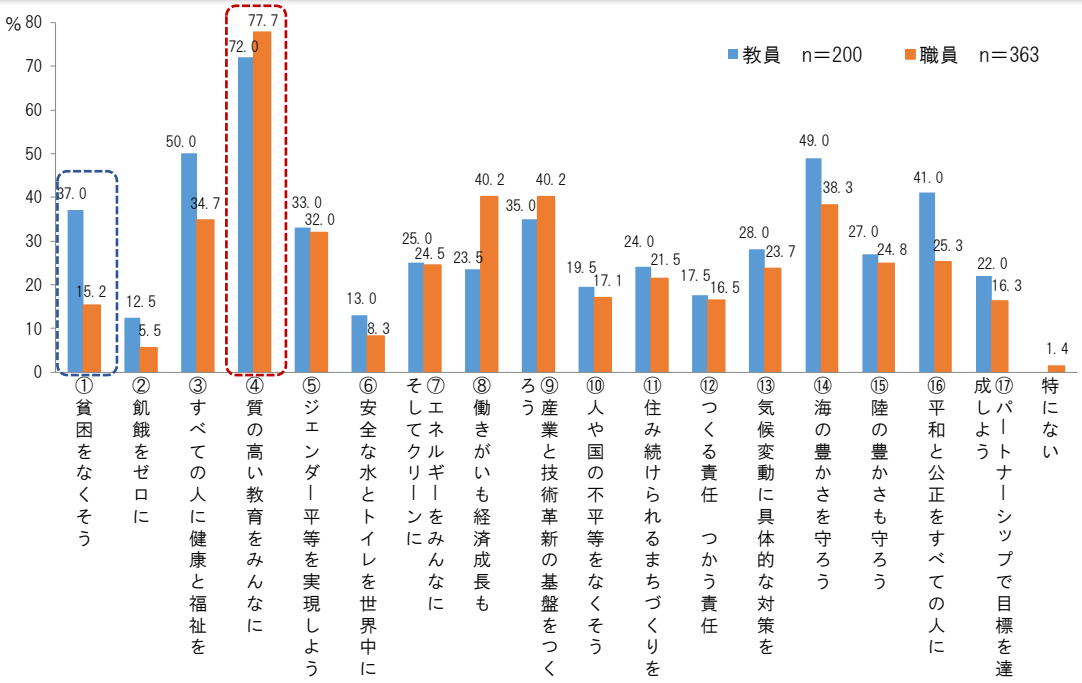
①SDGs17の目標で特に重要であると思う目標（複数回答）

教職員共に「④質の高い教育をみんなに」が6割前後で最も高く、「③すべての人に健康と福祉を」が続きます。「⑧働きがいも経済成長も」では教員より職員が14.7ポイント高くなります。全体的に重要性は教職員共に連動しますが、役割によって重要度の相違があります。



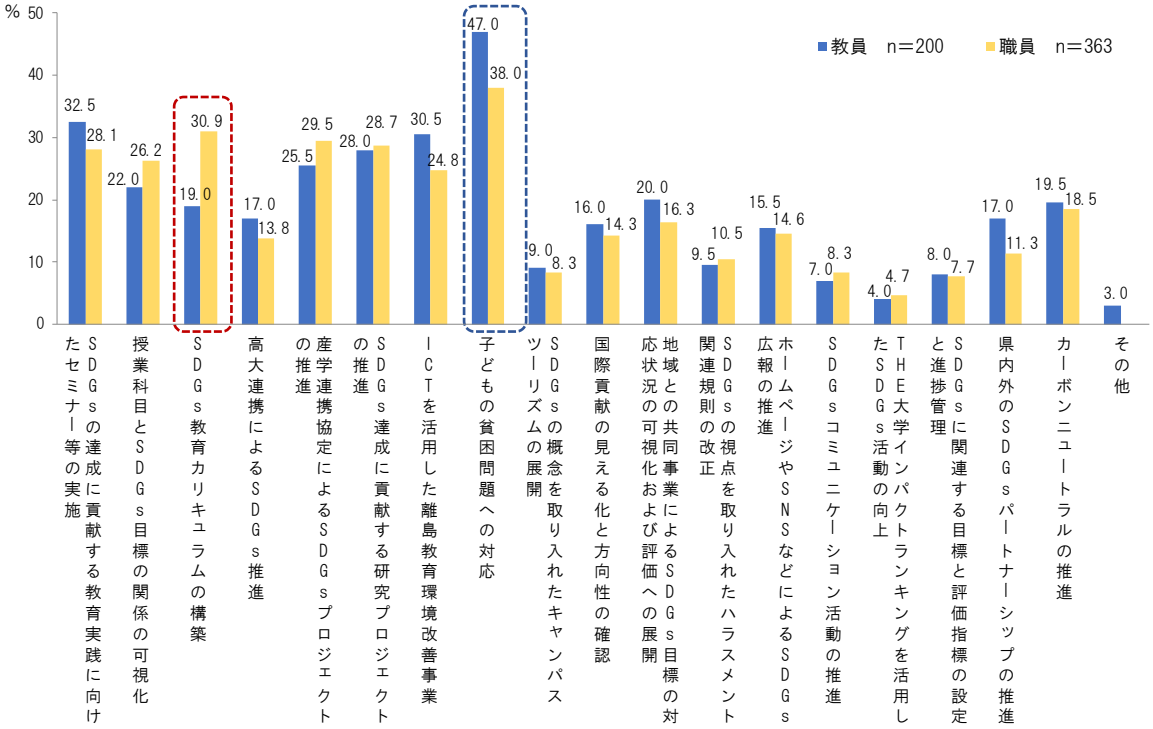
②SDGs17の目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標（複数回答）

教職員共に、「④質の高い教育をみんなに」が最も高い割合になっています。「①貧困をなくそう」は教員が37.0%に対して職員は15.2%と21.8 ポイントの開きがあり、教員と職員で認識が異なっています。一方、亜熱帯の島嶼に位置する本学の特長となる「⑭海の豊かさを守ろう」が教職員ともに4～5 割、「⑬気候変動に具体的な対策を」、「⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに」が教職員ともに3 割程の割合です。



③琉球大学SDGs推進室が重点的に取り組むべきだと考える項目（複数回答）

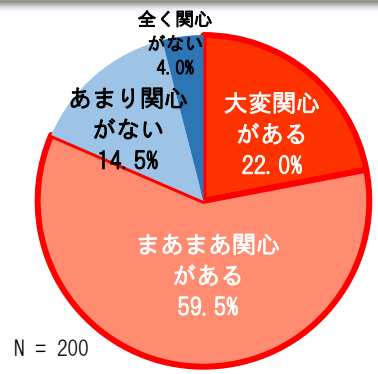
教員では「子供の貧困問題への対応」が47.0%で最も高く、教員が重要視していることが分かります。職員では「SDGs教育カリキュラムの構築」が教員よりも11.9ポイント高く、現場で使える実践的な知識が必要とされていることが分かります。



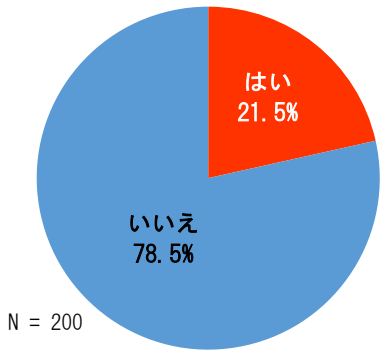
教員のSDGsとの関わり

教員

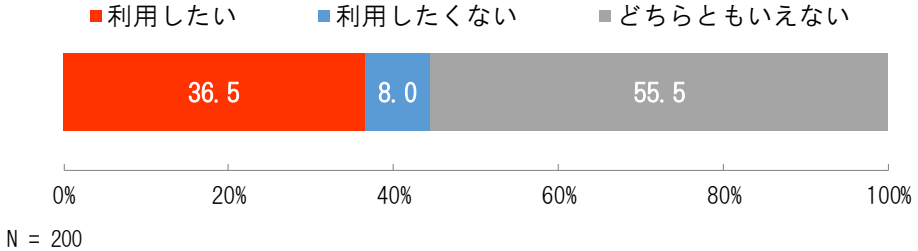
SDGsに関連する科目提供への関心割合は8割強、産学官連携で共同・受託研究の取組は2割程度と少ない結果となりました。SDGs達成に貢献する研究テーマへの支援制度の意向は36.5%が「利用したい」、「どちらともいえない」が5割程と態度保留割合が半数以上につき、理由について精査が必要です。



SDGsに関連する科目提供の関心



産学官連携で共同・受託研究の取組の有無

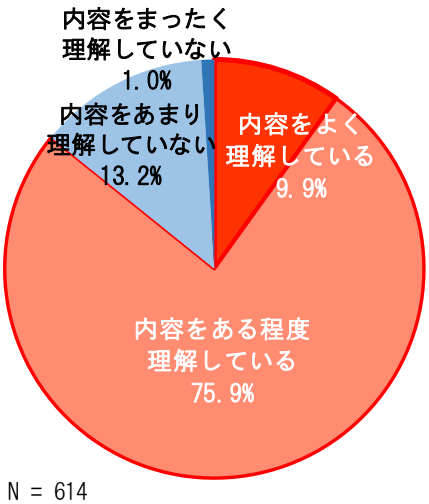


SDGs達成に貢献する研究テーマへの支援制度（学内公募など）の利用意向

学生のSDGsの理解度

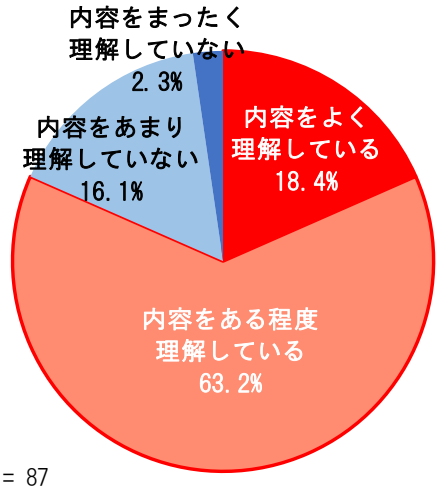
学部学生・大学院学生

「SDGsの理解度」は、学部学生・大学院学生共に8割以上の理解度で高く、大学の授業や課外活動等でSDGsを学ぶ・知る機会があると考えられます。



N = 614

学部学生



N = 87

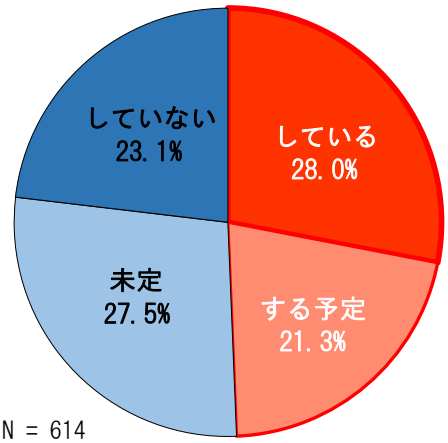
大学院学生

【内容の理解割合】

理解している
学部学生　85.8%
大学院学生　81.6%

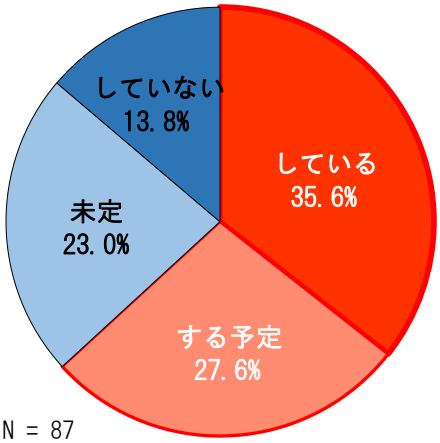
理解していない
学部学生　14.2%
大学院学生　18.4%

「SDGsの課題解決の取組」は、学部学生では「している」が28.0%、「する予定」は21.3%と半数が課題解決の取組へ意欲を示しています。
大学院学生では学部学生より7.6ポイント高くなっており。専門分野に特化する傾向がありますが、全体的な視点でみると、大半はSDGs の目標と関連しています。この関連性を広く知らしめるために、SDGs と研究の取組に関する事例やセミナーが役に立つと考えられます。



N = 614

学部学生



N = 87

大学院学生

【課題解決の取組割合　】

取組をしている
（予定含む）
学部学生　49.3%
大学院学生　63.2%

取組をしていない
学部学生　23.1%
大学院学生　13.8%

令和5年度琉球大学 SDGsに関する教職員・学生アンケート調査報告書【概要版】
発 行：琉球大学SDGs推進室　　発行日：令和６年３月
所在地：〒903-0213 沖縄県西原町千原１番地
電 話：098-895-8024（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）　ＦＡＸ：098-895-8185
ウェブサイト：https://sdgs.skr.u-ryukyu.ac.jp/